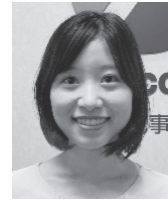




お家時間で挑戦したこと

株式会社ドーコン／都市・地域事業本部／都市環境部／技師 小林彩希子



1. はじめに

株式会社ドーコン都市環境部の小林彩希子と申します。2020年4月に入社して今年で2年目になります。入社した時はすでにコロナ禍であったため、多くの方々はちょっと違った新人生活を送っています。

外出自粛によって色々な制約はあるものの、家にいる時間が長かったことで挑戦できたり、そのなかで良い気づきもありました。そこで、本寄稿では私がお家時間のなかで挑戦してみたことを2つご紹介させていただきます。

2. 料理

(1) 料理の面白さに気がつく

大学に入学した8年前から、実家のある埼玉県を離れて北海道で生活しています。大学時代、札幌市内の飲食店でアルバイトをしたり、道内のボランティア活動を通して北海道の良いところを沢山教わりました。特に、アルバイト先の方々や、ボランティア活動で出会った道内の農家さんなどから、北海道の食材のことを教わる機会があり、その話を参考に友達と飲食店を開拓することが、楽しみの1つになっていました。

コロナ禍では飲食店で食事をすることが減ってしまいましたが、その代わりに家で自炊することが増えて、今では日常的に料理をすることが楽しいと思うようになっています。

料理が習慣になってから初めて分かりましたが、「日常的に料理をする」というのは、ゲームを進める感覚に似ていると思います。献立を考え（作戦を練り）、調達して、持っているものを管理して、ちょうどいいタイミングで上手に使うということが、まさにゲームの中で自分が成長していく工程と似ているのです。調理をするときも、野菜の切り方や、調味料の量、面倒な下ごしらえをやってみる、など成長する余地はいくらでもあります。上達すればするほど、食生活は豊かになりますし、健康的な身体づくりができる等、嬉しいことだらけなので「やめられない」状態になっていくのです。

(2) 北海道の食材と料理

北海道には多種多様に食材があります。今回は、せっかくなので北海道の旬の野菜を使って、暑い日でも食べられるあっさりしたものを作ってみました。

調達した野菜は、壮瞥町産のズッキーニ、赤井川村産のホワイトアスパラ、帯広市の「とうや」という種のじゃがいもです（写真-1）。「とうや」は主に道南地方で栽培される北海道生まれの品種です。中は黄色っぽくほのかに甘みがあり、ホクホクというよりは、滑らかな舌触りが特徴です。

献立は、じゃがいも・ズッキーニ・鶏肉の塩昆布レモン焼きと、アスパラグリル（写真-2）にしました。



写真-1 調達した野菜



写真-2 調理後

じゃがいもとアスパラは、それ自体にしっかりと甘みがあって薄味でもうまいと感じる味でした。ズッキーニは、塩と昆布と鶏肉の旨味を吸い取ってくれており全体のバランスを整えてくれていました。全体的にやさしい塩気になったので、身体が疲れたときにピッタリかもしれません。また、現場調査から帰った日にでも作ってみようかと思えます。

まだ今はレシピを見ながらでなければ作れないので、手間はかかってしましますが、自分で作ったものがうまい！と思った時の喜びはやみつきです。余った食材を計画的に使い切れたときも嬉しいですね。

家での趣味を探している方、ぜひ料理に挑戦してみてください。はいかがでしょうか。

3. リモートでのコミュニケーション

(1) 会社の方々と読書会

外出自粛によって、会社のイベントなども中止にならざるを得ず、社内の方々と交流する機会も減ってしまっています。そんななかで、先輩社員の方々がプライベートで企画していたオンライン読書会に参加する機会がありました。

読む本は自由で、各自で1冊用意しておきます。オンラインのグループミーティングに集まり、自己紹介と読む本の題名を共有したあと、15分間の読書タイムに入ります。その後、読んだ内容や感想を1人5分くらいずつ話します。最後に、他の人の話を聞いて気になった本や参加した感想を共有して終了です。全体を通して、時間はおよそ1時間弱となっています。

この読書会に参加してみて特に良いと感じたことを、2点挙げたいと思います。

(2) 読書会の良さ

「今、読みたい」と思って選択された本をみれば、その人が好きなことや、今興味を持っていることが見えてきます。また、時には普段の会話では聞けないような、キャリアプランや社会情勢、働き方などの価値観がみえてくることもあります。これまで読書会というものをしたことがありませんでしたが、会社の方々と気になる本を共有することで、先輩社員の方々が最近どんなところにアンテナを張っているのかを知ることができ、とても勉強になりました。

また、それだけではなく、短い時間で情報を整理して人に伝えるという訓練にもなっていました。実際、15分

で本を読み進めながら書いてある内容を整理して、その後すぐに分かりやすく説明しなくてはなりません。参加者の中では一番若手だったので、少し緊張しましたが、人前で話す練習として、とてもいい機会になりました。

読書会は、たった1時間の中でも、新しい情報を得ることと、自分のスキルを磨くことが凝縮されており、学びの場として、とても有意義であったと思います。そして、その時間を通して、仕事で関わりがなかった社員の方々とも交流することができたので、非常に楽しく、参加できて良かったと思います。

(3) リモートならではの良さ

この読書会には、小さいお子さんがいる方々も参加していました。自宅から参加できるので、子育てや家事を終えてから、そのまま参加することができます。また、状況によっては一時的にミュートにしたり、離席することも可能であるため、参加しやすかったのだと思います。

いずれコロナウイルスの感染症拡大が落ち着いて、以前と同じように生活できるようになっても、出産などで飲み会などにやむを得ず参加できない時もあると思います。対面でのコミュニケーションは必要だと思いますが、この読書会で楽しい時間を過ごしていると、リモートの対話がいずれコミュニケーション手段の一つとして、定番化されていくのではないかと可能性を感じます。私自身も、遠くにいる家族や会社の方々と柔軟にコミュニケーションをとれる方法の一つとして、引き続き活用していきたいと思いました。

4. おわりに

今回、お家時間で私が挑戦した料理と読書会についてご紹介させていただきました。皆さんは退勤後や休日にならういった時間を過ごされているでしょうか？

自粛生活とはいえ、やりたいことができないと我慢するより、上手く工夫して過ごす方法を模索していけたらと思っています。仕事上でも、周りの方々に見て頂いたり、質問することが多いですが、対面でなくても積極的に質問したり、口頭でわかるように説明するなど、うまく対応することができればやれることは広がっていくのではと思います。

今年度も、引き続きコロナウイルス感染症対策をしながら仕事を進めることになるかと思いますが、心身ともに健康を保って仕事に専念できたらと思います。



40代からの新たな“挑戦”

株式会社NJS／東部支社／仙台事務所／所長 新井山幹樹



私は、1996年4月に株式会社NJSに入社し、気付けばすでに四半世紀を水コンサルタントとして生きてきたことになる。もともと性格的に、好きなものにはとことん興味やこだわりを持ち、まずは自分で経験してみようという思考回路を持ったタイプの人間である。そのような性格もコンサルタントという職業を結びつけたような気がする。良くも悪くも“挑戦”し、失敗や成功を繰り返し、実体験として経験を積み重ねて今の自分が形成されていることを実感している。今回、このような執筆の場を頂戴し、堅苦しいことをテーマにせず、せっかくなのでこの歳になって“新たな挑戦”に踏み出した自分の趣味の部分について触れてみたいと思う。

少年期に抱いた思い

中学生の時、人生ではじめて英語の授業を受け、英語が話せるようになりたいという漠然とした憧れの気持ちを抱き、語学や外国文化に興味を持つようになった。また、地理の授業で渡された地図帳を眺めては、世界各地の人々の生活を勝手に想像して、現地へ思いを馳せる時間が好きだった。高校生の時、その頃住んでいた街の近くに、米軍基地があり、基地内の高校サッカー部との交流戦などを通じ、外国の方々と触れ合う機会があり、そのたびにコミュニケーションの取れない自分にもどかしさを感じたのもこの頃であった。(今もその状態のままだが。)高校3年生の夏休みに、アメリカへの語学留学の話があったが、サッカー部の活動を優先し、部活動を投げ出してまで留学する勇気もなく、それ以降、海外へ飛び出す機会を逃し続けてきた。

少年期から抱いていた海外への思いは、その気持ちを温めるばかりで、気づいたら40代半ばになっていた。

チャンスは突然に訪れた

数年前、株式会社NJSでは、海外プロジェクトへの国内社員の積極参加を促し、国内外の垣根なく、業務経験が得られるよう、グローバル社員制度というものができた。私のように海外に興味のある社員にとっては、願ってもない制度であり、当然、迷うことなく私はグローバ

ル社員に志願した。この制度をきっかけに、自主的に英会話学校に通うことを決め、2年間ほど仕事の合間を縫って、老若男女が集う初心者コースで四苦八苦しながら勉強し、最終的には中級者コースに昇格できた。ただし、中級者コースと言っても、ネイティブの話を何度も聞きなおして理解し、中学英語をたどたどしく並べて伝えるしかできない程度でした。この英会話学校で得られたことは、“英語を話す度胸がついたこと”であり、これも40代からの“新たな挑戦”のひとつであった。

そのような努力を続けていた中、グローバル社員に志願した私に、ロサンゼルスへの海外研修の機会が舞い込んできた。業務は極めて多忙であったが、ここでまた高校生の時のようにチャンスを逃しては、もう二度と巡ってこないだろうと思い即決した。

研修では、訪問先である研修センター（現地コンサルタント）に滞在先のホテルから通うかたちで、語学研修、打合せ参加、処理場見学、建設現場見学など多くの研修メニューをこなした。自由時間も有効に活用し、約10日間の日程をあっという間に過ごした。



写真-1 NJS海外研修センターにて

このアメリカへの旅（研修）を皮切りに、これまで抱えてきた海外への思いに再び火が灯り、さらなる“挑戦”として、40代半ばにして単身バックパッカーになって、色々な土地を自力で巡ろうと決心した。

単身バックパッカーへの“挑戦”

海外研修は人生観を変えるような有意義な経験となった一方で、研修では同行者に頼り切った状況もあり、自分に対するふがいなさも痛感していた。この気持ちを振り払うため、思いきって単身バックパッカーで旅に出ようと決めた。バックパッカーの旅には、個人的に見たい・食べたい等のテーマを決め、なるべく週末を利用して気軽に往来可能なアジア圏にターゲットを絞った。もちろん妻にも私の気持ちは理解してもらい、安全な国ならばということで許しを得ている。こうして40代にして海外バックパッカーに“挑戦”することになった。

以下、いくつか思い出に残っている旅内容について紹介するが、あくまで単身で行きやすく、旅行の難易度は易しい土地ばかりであることはご容赦頂きたい。

(1) 身近な海外「台湾」

バックパッカー初心者としては、まずは距離的にも非常に近く、親日的であるという理由から「台湾」に行くことにした。台湾には見たい・食べたいものがたくさんあるが、まずは夜の台北駅が大変美しいと聞いていたので、これを見に行くことを目的として現地に向かった。誌面ではカラーではないのが残念であるが、この時の台北駅は、紫を基調とし、赤・黄などの蛍光色で建物全体が発光し、暗い夜空を背景に素晴らしく映え、期待通りの美しい光景に出会えた。食べ物は、夜市や地下街などで色々と食べたが、いわゆるローカル食堂で地元民に囲まれながら食べたワンタンスープが一番おいしかった。バックパッカーのデビュー戦としては上々の滑り出しとなった。



写真-2 夜の台北駅

(2) 夜遅くまで活気のある「タイ」

どうしても見たい景色がバンコクにあった。そこは、有名なナイトマーケット「タラート・ロッドファイ・ラチャダー」というところで、インスタ映えする写真が撮れるスポットであった。夜遅くにバンコクに到着し、アソーク駅周辺のホテルに荷物を置き、すぐに電車で現地に向かった。現地の近くにあるショッピングモールの駐

車場の階段を上り、眼下に広がる照明に照らされた色とりどりのテントの眺めは最高だった。写真よりも実物のほうが綺麗なので、しばらくその眺めに圧倒されていたが、この後、ちょっとしたトラブルに巻き込まれることは知る由もなかった。詳細は後述する。



写真-3 バンコクのナイトマーケット

(3) 将来が気になる「香港」

香港を訪れたのは、反政府・民主化運動の学生が大学構内にたてこもるデモが世界的にフォーカスされていた頃である。街中の道路や信号機などはデモ隊により破壊されたものも多くみられ、大学付近には機動隊が集結していた。とはいえ、訪れた目的はネットで目にしたあるスポットに興味を持ったからだ。それが写真の場所である。実際に訪れるとその迫力に思わず息をのみ、時間が経つのを忘れてしまうような、それでいてどこか懐かしい感覚になる不思議なスポットであった。ここでは住民のお婆さんの荷物運びを手伝い、言葉は分からないが、和やかな交流ができたことも良い思い出になっている。



写真-4 香港のインスタ映えスポット

(4) 国の勢いを感じる「ベトナム」

ベトナムは経済成長の著しい国の一つである。それはタンソンニャット空港を降りた時の雰囲気からも感じ、人の多さや客引きの強引さなど、これまで訪れた国とは違った勢いを肌で感じた。このベトナムには、人生で一度は訪れたかった場所があった。それは、ベトナム戦争証跡博物館で、言うまでもなく、ベトナム戦争の悲惨さ、愚かさ、狂気を伝える展示物が多く並ぶ場所で、ここでは詳述することは避けざる得ない内容のものが多く展示されていた。個人的には、みなさんも一度は見学しておくべき場所として紹介しておく。

ちなみに、ベトナムの本場のフォーは、想像以上においしく、日本人の口に合う味で、本当においしかった。これは是非とも妻にも食べさせてあげたい。



写真-5 ベトナム戦争証跡博物館

(5) 海外ではトラブルはつきもの？

タイでは、先述のナイトマーケットの撮影に夢中になり、終電に乗り遅れ、軽くパニックになった。しばらく暗い夜道をさまよったが、さすがに危険も感じたので、その場でGRABというアプリを入れ、バイクタクシーを呼び、何とかホテルに戻ることができた。疲労困憊で、近くのコンビニでビールを買おうとしたら、アルコール

の販売時間外で店員に断られ、かなり食い下がったものの、やむなく水で我慢した苦い経験もした。

ベトナムでは、空港で航空会社からバックパックを預入れ荷物にしると言われ、片言の英語では太刀打ちできず、やむなく預入れたが、気が動転し、日本で使っていた財布をバックパックに入れたままにってしまった。帰国後に気づいたのだが、財布の中身が空っぽだった。空港の預入れ荷物の中身にはご注意を。

おわりに

バックパッカーと言っても、私はなるべく短期間で帰国可能なエリアに絞っており、上級者からすると、まだまだ難易度の低い土地にばかり出かけている。しかし、どんな旅先でも一人で知らない土地に行くことは、常に“挑戦”の連続である。あらゆる行動に言葉の制約があり、また想定外のリアクションをされたりする中で、恐れずに自分の意思を伝えること、トラブルに遭っても対応することなど、あらゆる行動そのものが“挑戦”であり、それが一人旅の楽しさでもある。

私自身、この歳になって“新たな挑戦”ができていることに幸せを感じている。この歳になってから経験したからこそ、色々なことを新鮮な刺激として感じられるのだと前向きに捉えている。若いうちに経験しておけば良かったという後悔はない。早くコロナが収まり、健康なうちに、なるべく多くの土地・文化・人間に触れたいと思っている。

最後に、取って付けたようなコメントになるが、個人的に“挑戦”することに立場や年齢は関係ないと思っている。いくつになっても初めてやることは常に“挑戦”であって、特に仕事は同じ内容のようでも、全く同じ仕事はなく、常に“挑戦”し続けるものだと思う。いつまでもこの姿勢を失わず前向きでありたいと思う。



会員寄稿

水コンサルタントに必要な感性を磨くための諸事項雑感

株式会社中央設計技術研究所／東海支店／副支店長 佐竹俊昭



1. はじめに

石川県金沢市に本社のある中央設計技術研究所に入社して23年が経ち、単身赴任で東海支店（岐阜市）に赴任して5年が経ちました。単身赴任ならではの生活を謳歌しながら、昨今感じている水コンサルタントに必要な感性を磨くための諸事項について、私見ながら特に若手技術者に対して工学技術以外の観点から述べたいと思います。

2. プロフェッショナルに必要な力

私は水道の技術者であります。入社以来、計画、認可、設計業務に携わってきました。近年では官民連携業務等に携わっていますが、これから活躍する若手技術者は、日本がこれまで経験したことの無い人口減少時代に対応する官民連携や広域連携等の解決策を含めて、水道界を挙げての連携と挑戦により、オール世代でこの難局を乗り越えていかなければなりません。

私たちはコンサルタントでありプロフェッショナルです。プロフェッショナルに必要なと考えられる力として、まず「①能力（専門力、マネジメント力）」が必要なことは自明の理ですが、「②熱意」と「③正しい考え方」も必要だと思います。熱意は主体的・当事者意識を持って関係者と連携して新たな課題に挑戦していくことです。正しい考え方とは、法令・倫理遵守は当然ながら、利己だけではなく利他の心をもって行動するという事です。「他者や社会のために頑張ることが自分の成長につながる」、「自分が成長することで結果的に他者や社会の役に立つ」という相互補完的な関係を融合させることがプロフェッショナルとしての成長のカギを握っているといえるでしょう。VUCAの時代（先行きが不透明で将来の予測が困難な時代）を強く生きていくためには、特に若手技術者は②と③の力が必要不可欠だと思います。

また、第64代総理大臣の田中角栄は、「政治家は発言に、言っていないこと・悪いこと、言っていない人・悪い人、言っていない時・悪い時、に普段から気を配らなくてはならない」という言葉を残していますが、これは私たち水コンサルタントにも当てはまると思います。私たちの仕

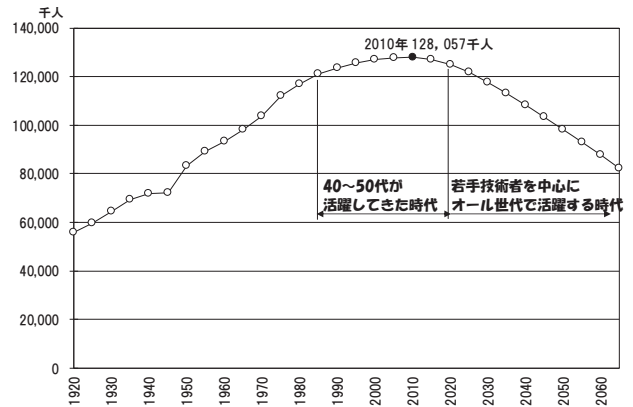


図-1 日本の人口推移 (実績・推計)

事のほとんどがコミュニケーションや人間関係を含めて言葉で成り立っています。若手技術者の方は強く認識しておいて頂きたいのですが、協議や会議等に限らずお客様や社内関係者との人間関係を良好に維持するためには、適切な言葉、相手、時、場所を選択する判断が年を経るにつれてとても重要になってくる、私の23年の社会経験を通して強くそう思います。

3. 自国の歴史認識の必要性について

私たちは現在勤めている会社に所属しており、帰属意識を持っています。それ以前に日本国に所属しています。私は30代半ばで東欧マケドニアの海外プロジェクトを経験させて頂きましたが、現地の方々と雑談すると彼らは自国の歴史・神話について誇りを持って話してきます。一方、「おまえの国の歴史・神話はどうなんだ？」と質問されますが、私は十分に答えることができず、自国の歴史認識の必要性について痛感させられました。彼らや先進国を含め、ほとんどの国では自国に誇りが持てるように自国の歴史・神話を幼少時代にしっかりと教えています。最近の日本の歴史教育はあまり存じていませんが、私が小学校・中学校で学んだ歴史の記憶では、縄文時代、弥生時代を経て、魏志倭人伝に出てくる卑弥呼が邪馬台国の長として祭祀を司り、ムラガクニになり、いつのまにかヤマト政権が確立して大化の改新により天皇中心の国造りが始まった、ぐらいの認識です。現代の日本では、

日本最古の正史である古事記や日本書紀の詳細も教えていません。確かに太平洋戦争に敗北して以降は、GHQ特にアメリカ主導の教育が行われたために、日本の歴史や神話を含めて日本古来の信仰や精神は二重にも三重にも屈折させられました。一例として、私たちが卒業式等でよく歌う「蛍の光」があります。1番2番の歌詞までは歌いますが、3番4番があることはあまり知られていません。興味のある方は調べてみるのも良いでしょう。幕末以降の近代史のことを調べれば調べるほど、私たちは戦前の日本人との連続性を断ち切られてしまっている、そう思えてなりません。「愛国心」と言うと、どこか後ろめたい、偏狭なナショナリズムとして忌避する傾向が根付いてしまっています。

私たちのお客様である国や都道府県、市町村の公務員の方々は、国民や地域住民全体の奉仕者として公共の利益のために職務を行う服務宣誓をされています。公務員に準ずる役割を担う水コンサルタントにおいても、その存在価値は日本や社会のために尽力することであり、技術士試験の面接でも「公益確保の責務」を答えた経験がありますが、そうである以上、私たち日本人の感性、心情等の原点である自国の正しい歴史認識を知るということは特に重要だと思います。イギリスの歴史学者A.J.トインビーは「自国の歴史を忘れた民族は滅びる」と言っていますし、「すべての価値を物やお金に置き換え、心の価値を見失った民族は滅びる」とも言っています。公共のために尽力すべき私たち水コンサルタントはこの言葉を重く受け止めるべきでしょう。

4. 国際情勢の認識について

私を含めて国内で水道業務に没頭していると、国際情勢に疎くなることもあるかと思います。昨今のアメリカ・中国の覇権争いやイスラエル・アラブの中東情勢問題等、日本が海に囲まれているせいか私たちは当該事象を対岸の火事として扱うことも多いと思います。しかしながら、私たち水コンサルタントを取り巻く経営環境やサプライチェーンを含めて、世界で今何が起こっているかの国際情勢は認識しておくべきですし、仕事に活かせることも多々あると思います。

私が考えるに国際情勢の根底にあるものは「民族」と「宗教」と言っても過言では無いと思います。中東問題が特にそうですし、前述した東欧マケドニアを含む旧ユーゴスラビアも、「ヨーロッパの火薬庫」と言われるぐらいのきな臭いバルカン半島に位置しており、第一次世界大戦の発端となったサラエボ事件や最近ではボスニア・ヘルツェゴビナ紛争やコソボ紛争も民族・宗教問題が原因で発生しています。

日本は一つの日本民族で成り立っており、聖徳太子の「和をもって貴しと為す」に見られるように多様性を受け

入れる寛容性の高い文化もあり、民族・宗教問題は皆無に等しいといえます。一時は「日本人は無宗教だ」という論がなされたこともありましたが、日本人の多くは宗教と聞くと「わからない」と言って、その時点で頭のスイッチを切ってしまいます。一方、世界でGDPのどのくらいが宗教関係に支出されているかを調査した方がいましたが、それによるとアメリカ・ヨーロッパで約2%、日本でも約2%だそうです。日本国憲法では宗教の自由と政教分離原則が規定されていますが、私たち日本人は出産や七五三では神式、結婚ではキリスト教式、葬式では仏式等に支出する方も多いと思いますし、各地で連綿と続いている祭りや神事、仏事が証明しているように、これらの宗教観が日本人の自己同一性を形作っており、決して日本人は無宗教ではありません。

国際情勢をより理解・把握するうえで、世界5大宗教であるキリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥー教の概要・違いは知っておくことをお勧めいたします。日本民族の人生観のベースとなる宗教観があるのと同様に、各国にも人生観の根底となる宗教観があり各国家の行動パターンを制限・規制しており、世界各国のコンセンサスを形成する舞台が外交であり、国際情勢を動かしている根底の一つが宗教であるといえます。日本は政教分離とはいえ、世界を動かしている宗教から逃げてはいけません。

5. マスメディア報道等の本質を見抜く目について

私の会社のグループ会社である株式会社オリエンタルコンサルタント最高顧問の大石久和先生の名著『国土学』が解き明かす日本の再興』で以下の事項が述べられております。

- ・2017年に高大連携歴史教育研究会が作成した高校歴史用語精選案では、歴史教育の暗記偏重から脱するため、坂本龍馬などの歴史上の有名人の名前を省こうとして批判された。かなりの騒ぎとなったため、坂本龍馬はOKとなったようだが、従軍慰安婦や南京大虐殺は新たに登録された。
- ・この歴史研究会は、日本の子供たちが坂本龍馬は知らなくても歴史を学んだことになるが、従軍慰安婦を知っていなければ日本史を履修したことにならないと主張していたことになる。
- ・なぜ戦後も最近になってからの創作用語である従軍慰安婦や、大虐殺があったかどうかについていまだ議論がわかれている南京侵攻について中国の主張どおりの用語で日本の高校生が学習しなくてはならないのか説明すべきだ。
- ・文科省はいったい何を考えているのか。誰のためにこの用語を選択したのか、実に不思議な話である。
- ・これらのことが問題にもなっていない日本のこの言論



写真－１ 役小角が法力で投げ入れたといわれる投入堂



写真－２ 高野山金剛峰寺根本大塔

状況に、時代の空気を醸し出し言論を支配しようとする目に見えない統制の意図を感じる。

いかがでしょうか。文科省も問題ですが、テレビや新聞などのマスメディアの報道姿勢も問題だと思います。放送局も新聞社も各社各様の主義主張を持って、報道・論評するという姿勢は頷けます。しかしながら、慰安婦報道でも記事の訂正・お詫びをした新聞社もありましたが、事実に基づかない、あるいは歪曲や捏造をもって日本人と日本国の名誉を貶める、国益を損なう言動を続けるマスメディアの姿勢はいかかなものかと思います。

水コンサルタントは公明正大でなければならないと思います。誰かの偏った価値観に依存することはもっての外で、水コンサルタントとしてお客様をより良い方向に導く立場である私たちは、常日頃から本質を見抜く目・見識を養うクセをつけることが重要です。

6. おわりに

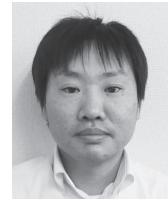
東海支店に赴任してから、暇を見つけては趣味である登山や神社仏閣巡りに勤しんでいます。飛騨高山の霊峰位山や三徳山三佛寺投入堂、高野山金剛峰寺に熊野那智大社等、このような大自然や名勝地、古の文化を前にすれば、人間の一生など線香花火のきらめきのように感じられ、日頃の苦しみや悲しみ、怒りは取るに足らないものと思えてきます。

また、名のある政治家や経営者は、神社に足繁く通うと言われます。多くの成功を収めている方たちほど、天運を信じ、感謝の心を大切にされているのだと思います。若手技術者の方々も、今の仕事に携われていることへの感謝の心を忘れず、身の回りを常にきれいにし、笑顔を絶やさずに水コンサルタントに必要な感性を磨きつけて、素晴らしい充実した人生を送っていただきたいと思えます。



私のワーク・ライフ・バランス

株式会社 大広エンジニアリング／本社／技術部／係長 盛谷悠介



1. はじめに

私は、高校時代から「水の流れ」に対して興味があり、大学時代には水工学の研究室を専攻しました。

2009年に大学を卒業後、地元で貢献したいことから、広島市に本社がある株式会社大広エンジニアリングに入社しました。

現在は、入社して13年目になり、中堅社員として会社に貢献出来るように日々、努力しています。

今回は、テーマは自由ということで、発信の機会を頂きましたので、これまでの仕事内容と趣味について紹介させていただきます。

2. 仕事内容

(1) 水道

入社後1年半は、水道の詳細設計グループに配属され、配管の詳細設計を行いました。

初めての詳細設計は、先輩社員のご指導のもと、管割図等の図面作成や数量計算を行いました。

(2) 下水道

2年目の途中からは、下水道計画に携わり、先輩社員の指導のもと、ある市町の事業計画と下水道台帳作成業務の担当をいたしました。3年目以降は、下水道計画や雨水氾濫解析業務を中心に仕事をしてきました。

弊社は上下水道に特化した会社です。人材育成の方針として、水道と下水道の両方の仕事をこなせるように水道、下水道双方の仕事をしています。そのため、3年目以降は、水道計画の業務が受注した際には、担当者としてメンバーに入り、水道の業務も携わっています。

(3) 特に印象に残っている業務

2015年の雨水氾濫解析業務では、当時、国土交通省からガイドラインが公表されたばかりの「下水道浸水軽減総合事業」と絡めて業務を行う必要があったため、役所の担当者とは何度も協議を重ねました。時に心が折れそうになることもありましたが、自分なりに納得いく成果品を収めることができ、苦労した分、大きな達成感が得ら

れました。

(4) 後輩

中小企業ではよくあることだと思いますが、新入社員の採用が少ないため、私には同期はおらず、その後、5～6年間は後輩がいない状況でした。少し歳の離れた諸先輩が公私にわたり、優しく指導して下さるものの歳が近い先輩、同期や後輩が居ない分、少し寂しい状況でした。

最近では、数名の後輩が入社して来ましたが、20代の社員ということもあり、なかなか話題がかみ合わず苦勞しています。何とか、飲みニケーション等で心を掴みたいと思っていますが、昨今の新型コロナウイルス禍のため、開催出来ず苦戦が続いています。

(5) その他

直接の業務ではありませんが、水コン協中国四国支部の技術小委員会の委員をしています。

技術小委員会では、毎年持ちまわりで、各市町で開催する現場見学会および技術講習会のテーマなどを議論する委員会です。この委員会では、普段話をする機会のない同業他社の方達と情報交換するとても良い機会となっています。

また、毎年下水道の日（9月第2日曜日）に、下水道の啓発活動として、広島市主催の「下水道ふれあいフェア」に参加しています。ここでも水コン協中国四国支部



写真-1 下水道ふれあいフェアの様子

の对外活動を行う会員会社の皆さんと一緒に、会の活動方針や活動内容の報告を行っています。近年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、小委員会と下水道ふれあいフェアは開催されていません。

3. 趣味

私は、小学1年生から中学3年生まで親の勧めで剣道クラブに所属していました。しかし、実は野球がどうしてもしたくて、高校では硬式野球部に入部し、充実した学生時代を過ごしました。

大学に入ると友人と一緒に1からチームを作り、軟式野球連盟に加盟して試合や練習をしていました。

社会人になってからも、地元の草野球チームに所属し、春から秋にかけて一カ月に2回程度活動をしています。そして、3年前からはチームの運営・管理に携わり、チーム代表として、主に対戦相手の調整やHPでの成績更新等の役割を担っています。

チーム代表になって、初めて気づいたことや考えさせられることがあります。実は、草野球チームを存続させることが難しいことをご存じでしょうか。多くのチームが2～3年で消滅してしまいます。私の所属するチームも元々、地元就職しているメンバーでチームを創設しましたが、転勤・結婚・育児等の様々な理由で人数が減り、当初は20人近く在籍していたメンバーも徐々に減っていき、存続も難しい状況となっていました。

そこで私が運営・管理に携わってからは、他チームとの差別化を図ったり、SNSで積極的に情報発信を行うことにより、3名ほど入団してくれるようになり、なんとか廃部を免れ活動が継続できている状況です。

数年前には、技術小委員会で一緒になった委員の方が会社の野球部に所属されていることをお聞きし、試合の対戦相手をお願いしたことがあります。会社のサポートがあるクラブ活動ということもあって、メンバーもさることながら、カメラマンや応援者の多さに驚きました。拮抗した試合展開となり、とても楽しい時間が過ごせました。新型コロナが落ち着いたら、再戦をお願いしたいものです。

これからも「次の日からまた仕事を頑張ろう」と思えるこの趣味の場を大切にしていきたいと思っています。



写真-2 草野球チームの集合写真

4. おわりに

現在、コンサルタント業界では、高齢化が進んでおり、弊社も例外ではありません。

技術者としては、まだまだ知識や経験が不足しており、日々勉強しなくてはいけないと思っていますが、それと同時に後輩や部下の人材育成に力を入れる必要があると感じています。これまでは先輩方に支えられて仕事をしてきましたが、これからは後輩や部下を指導できるようにするとともに、仕事が楽しいと思える環境づくりに率先して取り組んでいきたいと思っています。

また、昨今は弊社でも働き方改革や新型コロナウイルスの影響で、時差出勤や在宅勤務が増えるなど、仕事のやり方が変わってきています。

ひと昔前は、手書きで図面を作図していた時代から、今はPCのCADソフトで図面を作図するのが当たり前です。現在はさらに、AIやICT時代の過渡期に突入しています。

この時代の変化に柔軟に対応していけるよう、社会経済状況や技術革新などにしっかりアンテナを張って、より会社に貢献できるように努力していきたいと思っています。



趣味を作る

日本水工設計株式会社／九州支社／下水道課 池田啓輔



1. 趣味を作りたい

私は趣味を作りたいと思いました。理由はいくつかあります。

一つは、コロナ禍で休日を持って余っていたから。

一つは、「趣味は何ですか。」と聞かれた際に戸惑う自分と決別したいから。

一つは、彩りある人生を過ごしていくために、趣味が必要であると感じたから。

一つは、この会員寄稿に書くことが思いつかなかったから。

2021年5月上旬、私は生涯付き合っていく趣味を作ると決心しました。

2. 趣味を決める

何を趣味にするか。悩みに悩んだ挙句、エレキギターを趣味にしようと決めました。理由はいくつかあります。

一つは、格好良く、印象もいいから。

一つは、音楽が好きだから。

一つは、楽器の中でも騒音問題になりにくいから。

一つは、仮に飽きてもインテリアとして格好良いから。

2021年5月中旬、私はエレキギターを趣味にしようと決心しました。

3. 趣味を手に入れる

エレキギターを始めるためには、いくつかの機材が必要です。およそ次の機材が揃えば、念願の趣味を手に入れることができると分かりました。

- ・エレキギター本体
- ・アンプ（音を増幅する機材）
- ・シールド（ギター本体とアンプをつなげるケーブル）
- ・ギターピック
- ・チューナー

エレキギター本体だけでは、大きな音が鳴りません。アコースティックギターには、弦の後ろに音を響かせる

ための空間がありますが、エレキギターにはないからです。代わりにアンプを用いて音を増幅させることにより、あのサウンドを鳴らすことができるのです。また、イヤホンやヘッドホンをアンプに接続すると、近隣住民に迷惑をかけることなく大音量で楽しむことができます。

さて、揃える機材は分かったのですが、多くのメーカーと機種があり、何を買えばいいのか見当もつきませんでした。私は早く趣味を手に入れたい一心から、googleの検索エンジンに『初心者 エレキギター おすすめ』と打ち込み、最初に目に入ったものを購入しました。ギター本体は、YAMAHAの「PACIFICA（パシフィカ）112VMX」というものです。その他の機材については、初心者セットという、必要機材が全て入った素晴らしいものがありましたので、これに決めました。

2021年5月下旬、私は念願の趣味を手に入れることができたのです。

4. 趣味を堪能する

(1) 音を鳴らす

趣味が手元にある。そう考えると嬉しくなり、音を掻き鳴らしてみたいという衝動に駆られました。もちろん、知識も技術も全くありません。

逸る気持ちに身を任せ、ジャカジャカと鳴らしてみます。それだけでもとても楽しく、耳から入ってくる不協和音が、全く不快なものに感じないほどでした。傍から



写真-1 ギターを弾く私

見れば、ただふざけているようにしか見えなかったと思いますが。

しばらくして、私の耳が不協和音を耳障りな音として認知するようになり、ようやく冷静さを取り戻しました。

(2) 仕組みを知る

冷静な私は、まずギターの仕組みについて調べました。

ギターには太さが違う6本の弦があり、一番太い弦を6弦、一番細い弦を1弦といいます。何も抑えずに弾くと、6弦から順に「ミ、ラ、レ、ソ、シ、ミ」の音が鳴ります。これらの弦を指で抑え、振動する弦の長さを変えることで、様々な音程を出すことができる仕組みとなっています。右利きの場合、基本的には左手で弦を抑え、右手で弦を弾いて演奏するようです。

(3) コードを弾く

「ギターを弾けます。」と言えるボーダーラインはどこでしょうか。私は、弾き語りができるレベルだと思います。弾き語りをするには、まずコード(和音)を弾けるようになる必要があると知り、私はコードの練習を始めました。

「コード(和音)を弾く」とだけ聞くと簡単のように思えますが、実際にやってみるととても難しく感じます。例えば、Cメジャーコードという「ド、ミ、ソ」で構成されるものがありますが、これをギターで弾くためには、左手で次のように押さえなければなりません。

- 6弦：音が鳴らないように軽く指で触れる。
- 5弦：「ド」の音が鳴るように弦を押さえる。
- 4弦：「ミ」の音が鳴るように弦を押さえる。
- 3弦：どこも押さえず、「ソ」の音を出す。
- 2弦：「ド」の音が鳴るように弦を押さえる。
- 1弦：どこも押さえず、「ミ」の音を出す。

どこを押さえればいいのかは調べると分かるのですが、2弦を押さえている指が1弦に触れたり、ピンポ



写真-2 ギターを弾く私 その2

イントで押さえる事が難しく、かなり苦勞しました。

物理的に無理なのではないかとも思いましたが、練習を繰り返すうちにできるようになっていきました。最初は、太く短い自分の指をととても恨めしく思っていました。何とかなるものようです。

(4) 演奏に挑戦

ある程度コードを弾けるようになり、いよいよ演奏に挑戦しました。

選んだ練習曲は、あいみょんの「マリーゴールド」という曲です。難しいコードがなく、初心者向けの楽曲として知られています。余談ですが、芸人であるロンドンブーツ1号2号の淳さんも最近ギターを始められ、練習の様子をYouTubeに投稿されていますが、同じようにマリーゴールドを練習されています。

演奏は、コードを次々に変更しなければなりません。一つ一つのコードを押さえる事が出来ていても、瞬時に切り替えることができなければ、演奏が止まってしまう。これがとても難しく、今もスムーズにできていません。また、これに歌まで加わると、さらに難しくそうです。「ギターを弾ける」ようになるには、まだ時間がかかりそうです。

5. まとめ

ギターを始めて約1か月になります。今はまだスムーズに弾くことができませんが、自分のペースで練習していこうと思っています。とりあえずの目標は、「マリーゴールド」を弾き語りできるようになることです。そして将来的には、ソロギター等にも挑戦していければと思っています。

個人的な考えですが、ギターは未経験者に優しい楽器だと思います。楽譜を読める必要がなく、コードを弾くだけでも音楽になるからです。私と同じように、何か趣味を始めたいと考えている方には、心からおすすめいたします。

以上、拙い文章にお付き合いいただき、ありがとうございました。



写真-3 相棒たち